第9章

都市下層民とテレビの愛好番組
―― 宗教番組愛好者の社会像

第1節　都市下層民の好きなテレビ番組

トルコにおいては国家建設の原則は，はじめにで述べたようにアタチュルクの6原則である。共和主義，民族主義，民主主義，改革主義，国有産業主義と政教分離主義である。政教分離主義のために，イスラム教に対するトルコ民衆の意識を直接に問うことは困難である。本調査ではテレビの好きな番組を二つあげてもらい，民衆の宗教意識の一側面を探った。

好きなテレビ番組を二つあげてもらった理由は，第1に好きな番組としてあげる回答はどちらかといえば，建前の回答が出され易く，また，調査者の近くに集まる他の人々への配慮などが働いて，本音の回答を聞き出すことが困難であると想定したからである。むしろ，第2に好きな番組としてあげる番組の方が本音の回答を示すように思われる。とはいえ，本音か建前かの判断は不可能であるため，ここでは第1に好きな番組と第2に好きな番組のいずれかに示した番組を，その番組の愛好者として計算した。

調査した6都市のうちいずれもで，ニュース番組愛好者が最も多く，アンカラでは28.7％となるなど，最も高い都市がトラブゾン（29.4％）であり，最も低い都市がビュンヤン（25.0％）である。二つの回答を示さなかった人もいるため不明層がアンカラで28.0％である。不明層が最も高い都市はメ

ルシン（38.9％）であり，最も低い都市はトラブゾン（21.4％）である。

ニュース番組に次いで，映画などの愛好者が多く，映画番組愛好者は，アンカラでは11.3％を占め，メルシンでもアンカラとほぼ同じ（11.4％）で最も高く，ビュンヤンで最も低い（9.0％）。映画に次いで，スポーツ番組の愛好者は，アンカラで7.3％と教育番組の比率（8.0％）を下回るけれども，サッカー熱の高いトラブゾンでは最も高く（15.1％），ネブシェヒルでも（10.0％）高いが，地方町ビュンヤンでは最も低い（4.0％）。

トルコ民衆の愛好番組のうち，トルコ文化との関わりを最も示す番組として教育番組，歌番組，そして宗教番組に注目したい。

教育番組の愛好者比率は首都アンカラで高く（8.0％），地方都市では，伝統的大都市ガジアンテップ（5.0％，多数の調査地区が当該都市に存在するときには地区の平均値）や新興工業中大都市メルシン（4.2％），地方町ビュンヤン（5.0％）で低い。しかし，学歴構成が高く二番目に高収入であった小都市ネブシェヒルでは高く（9.0％），中都市トラブゾンでも高い（7.5％）。

歌番組の愛好者比率はアンカラで，他の2番組に対して低い（6.7％）。地方都市ではトラブゾンやビュンヤンで最も低く（2.9％や3％），メルシンでもアンカラより低い（5.9％）。しかし，伝統的な地方大都市ガジアンテップでは著しく高い（12.9％）。

宗教番組の愛好者比率はアンカラでは教育番組よりやや低い（7.3％）。地方都市では，新興工業都市メルシンで最も低い（3.0％）。これに対して，伝統的な地方大都市ガジアンテップ（11.1％）や伝統的中都市トラブゾン（12.2％）と高いし，地方町ビュンヤンではさらに高くなる（15.0％）。教育番組愛好者の比率は都市規模とは対応しないけれども，宗教番組愛好者の比率は，新興工業都市を除けば，都市規模が小さくなるにつれて高くなるといえよう。

第2節　好きなテレビ番組と調査地区

調査地区別に，詳しくみていく。

アンカラは教育番組を好むけれども三つの番組を均等的に愛好し，宗教番組の愛好者比率は他の2番組の中間にある(7.3％)。地方大都市ガジアンテップの中心地区は歌番組を愛好し，宗教番組の愛好者比率もわずかにアンカラを上回る(8.8％)。貧しい郊外地区では歌番組と宗教番組志向が著しく高い（ともに13.3％)。

新興工業都市メルシンは，宗教番組愛好者の少ないため非宗教的な都市ともいえる。メルシンの3地区では郊外農村地区セルジュク地区は著しく3番組を敬遠し，なかでも，教育番組や宗教番組の愛好者はわずかである（ともに1.4％)。メルシンの準中心地区シテラル地区は教育番組を好み（8.0％)，歌番組や宗教番組の愛好者は少ない(3.3％，3.0％)。地区住民には農村出身者が多く，とくに，東南部地域からの流入者が多かったデミルタシュ地区は，メルシンの非宗教的な他2地区に対して，宗教番組の愛好者が多く(8.8％)，ガジアンテップの2地区の水準に類似する。

中都市トラブゾンの二つの中心地区では，一様に宗教番組の愛好者比率が高く（12.9％，16.7％)，歌番組の愛好者比率は著しく低い（2.9％，1.6％)。とくに中心地区ザファール地区では歌番組も教育番組の愛好者比率が低く(2.9％)，宗教番組の愛好者比率がきわめて高い（12.9％)。富裕なエセンテッペ地区でも宗教番組の愛好者がきわめて高く(16.7％)，また，歌番組の比率はきわめて低いけれども，教育番組の愛好者比率はほぼアンカラと同じかやや上である（8.3％)。次に，郊外地区で学歴構成の高いバフチェジック地区では，中心2地区に対して著しい相違を示す。歌番組の愛好者比率もやや高いが，教育番組の愛好者比率が高く（11.4％)，逆に宗教番組の愛好者比率は低い（7.1％)。郊外地区で学歴構成の高いバフチェジック地区は，教育番組をもっぱら好むのである。

同じく学歴構成の高い小都市ネブシェヒルの350エブレル地区では，宗教番組の愛好者が最も高くなるけれども（12.0％，教育番組9.0％），トラブゾンのエセンテッペ地区ほど3番組の愛好者比率に相違はない。次に，地方町ビュンヤンの中心地区ではエセンテッペ地区よりも著しく宗教番組の愛好者が多い。すなわち，歌番組（0％），教育番組（9.0％）に対して，宗教番組の愛好者比率は高い（20.0％）である。地方町ビュンヤンの郊外地区では，愛好者比率は歌番組（6.0％），教育番組（4.0％），それに宗教番組（10.0％）である。宗教番組の愛好者は地方町の中心地区ほど多くはない。しかし，平均すれば，地方町で宗教番組愛好者が最も多いのである。

第3節　好きな番組と宗教番組愛好者像

〔アンカラ〕

宗教番組の愛好者像と教育番組の愛好者像に限定してみていきたい。アンカラでは宗教番組の愛好者はすでに述べたように7.3％であり，教育番組愛好者の比率（8.0％）よりやや低い。宗教番組の愛好者は高年齢層（50.4歳）であり，教育番組愛好者は弱年層である（34.2歳）（第II－17表参照）。出身地域別には，宗教番組愛好者には農村出身者が多い（81.8％，これに対して教育番組愛好者では16.7％）。収入に関するデータが，アンカラにはないため，想定家賃と実際の家賃から，経済事情を推定すれば，宗教番組愛好者が貧しく，教育番組愛好者が富裕である（想定家賃では，1万4500リラ，2万800リラ，1985年）。学歴では，宗教番組愛好者は文盲層が多くて小卒層が少ない（36.4％，小卒33.3％）。これ対して，教育番組愛好者は文盲は少なく，小卒層が多い（0％，小卒50.0％）。宗教番組愛好者には低学歴層が多い。

社会的態度を示す三つの指標（第II部第10章参照）を加えて，それぞれの番組の担い手を描けば，アンカラにおける宗教番組愛好者は，高年齢層が多くて農村出身者が多く，低学歴層で，収入は低い。しかし，（勤労）意欲は著し

く高く（4.27，地区平均3.33），外国文化あるいは消費文化の象徴であるテレビのコマーシャルにも地区平均よりは高い拒否反応を示し（2.36，地区平均2.20），高い不満を有する（3.00，地区平均2.91，各地区ごとの三つの指標値に関しては第Ⅱ－17表参照）。このような高意欲・高拒否・高不満を示す。これに対して，教育番組愛好者は，弱年層が多く農村出身者は少なく，収入は高い。（勤労）意欲は低いが（2.91），テレビのコマーシャルには，宗教番組愛好者よりも強い拒否反応を示す（2.64）。しかし，不満は高くはない（2.77）。教育番組愛好者は，低意欲・高拒否・低不満を示す。

二つの番組愛好者像，首都と地方都市

以下では，宗教番組と教育番組の愛好者の特徴を，アンカラ以外の地方都市においてみていこう。

(イ) 年齢的には，調査地区12地域において（アンカラを含む）宗教番組を愛好する人は，教育番組を愛好する人に比較して高年齢である（12地区のうち10地区）。しかし，伝統的な地方大都市ガジアンテップの中心地区（43.1歳，教育番組愛好者44.5歳）や中都市トラブゾンの中心地区ザファール地区（37.8歳，教育41.0歳）においては，高年齢層ではなくて弱年齢層が宗教番組を愛好する（第Ⅱ－17表，第Ⅱ－17図折れ線1と2参照）。

(ロ) 収入の点では，データの存在する9地区のうち，新興工業都市で中大都市メルシンの2地区（セルジュク地区とシテラル地区）では，宗教番組愛好者（7万9000リラ，10万リラ，教育番組愛好者4万5000リラ，8万6200リラ）が高い収入を得る。他の6地区では低い収入しか得ていない（ただし1地区では同じ）。データの存在しないアンカラと大都市に関しては，想定家賃でみれば宗教番組愛好者の方が低い経済条件にある（第Ⅱ－17表，第Ⅱ－17図折れ線5，6参照）。

(ハ) コマーシャルへの拒否反応の点（第Ⅱ－18図参照）では，宗教番組愛好者が教育番組愛好者よりも高い拒否反応を示す地区（折れ線5が折れ線6の上）は5地区であり（ガジアンテップの中心地区など，後述），低い地区（折れ線5が折れ線6の下）は6地区である（他2地区は該当する集団が存在しない）。宗教

番組愛好者の方が低い拒否反応を示す6地区は，首都アンカラや新興工業都市メルシンの3地区，あるいは，それらの都市の中で相対的に豊かな地区（すなわち，トラブゾンの豊かなエセンテッペ地区とエセンテッペ地区に次いで豊かなネブシェヒルの350エブレル地区）である。なんらかの意味で社会の中枢に近い地区である。

逆に，宗教番組愛好者の方が高い拒否反応を示す5地区は，伝統的工業大都市ガジアンテップの中心地区と郊外地区，伝統的中都市トラブゾンのうち最も豊かではない地区（すなわち，中心地区ザファール地区と郊外地区バフチェジック地区），また，地方町ビュンヤンの中心地区である。伝統的なものに近い地区，とくに，一般的な地方都市の中心地区で古くから存在している地区では，宗教番組愛好者が教育番組愛好者より強い拒否反応を示す。

(ニ) 不満の点では，宗教番組愛好者の不満はとくに高くない。宗教番組愛好者が教育番組愛好者よりも高い不満を有する地区（同図，折れ線3が折れ線4より上）は5地区である。逆に，低い不満を有する地区は7地区である。宗教番組愛好者がより高い不満を有しているわけではない。教育番組愛好者よりも高い不満を有する5地区は，アンカラ，新興工業都市メルシンの準中心地区シテラル地区，中都市トラブゾンの中心地区ザファール地区と郊外地区バフチェジック地区，地方町の中心地区である。

(ホ) （勤労）意欲の点では，宗教番組愛好者の（勤労）意欲が教育番組の愛好者の（勤労）意欲より高い地区（同図，折れ線1が折れ線2の上）は6地区，逆に低い地区は5地区であり，同じが1地区（ガジアンテップの中心地区）である。

宗教番組愛好者の（勤労）意欲が高い6地区は，アンカラ，地方大都市ガジアンテップの郊外地区，新興工業都市メルシンの郊外2地区，郊外（農村風）地区セルジュク地区，東南部からの流入者の多いデミルタシュ地区，小都市ネブシェヒルの350エブレル地区，地方町の中心地区である。首都や地方大都市，それに新興工業都市では，宗教番組愛好者の方が教育番組愛好者よりも（勤労）意欲が高く，また，小都市と地方町の中心地区でも宗教番組愛好

者の方が（勤労）意欲が高い。逆に，中都市トラブゾンでは3地区に全てにおいて，宗教番組愛好者の方が教育番組愛好者よりも（勤労）意欲が低いのである。

第4節　都市滞在と宗教番組愛好者の勤労意欲

次に，宗教番組愛好者と教育番組愛好者の勤労意欲を，都市滞在の期間に注目してみると次のようになる。都市滞在の期間が10年以下のときを短期滞在者とし，11年以上を長期滞在者とする。また，非移動者を都市第二世代と想定する。多くの非移動者は，親が都市に流入し，本人が都市生まれ，都市第二世代と考えてよいためである。ここでは，都市滞在にともなって意欲がどのように変化し，とくに，宗教番組愛好者と教育番組愛好者の間に相違が生ずるのかを検討したい。このため，都市滞在の期間が短い短期滞在者，長期滞在者，次いで都市第二世代（非移動者）の順に勤労意欲が推移していくと仮定する。

また，意欲の推移の型を次のように想定する。長期滞在者の意欲が短期滞在者の意欲より高くなるとき，a）勤労意欲強化型とする。低くなるときは，b）勤労意欲衰退型とする。また，都市第二世代（非移動者）の意欲が長期滞在者の意欲より高くなるときは，c）勤労意欲確立型とする。また，低くなるときにはd）勤労意欲非確立型とする。そして，勤労意欲が短期滞在者よりも長期滞在者で高く，しかも長期滞在者よりも都市第二世代で高くなり，さらに，アンカラの地区平均の勤労意欲を越えるときに限って，cc）本来の勤労意欲確立型と呼ぶことにする。第Ⅱ部第11章でも地区全体に関して同種の作業をするが，短期滞在者，長期滞在者，非移動者の宗教番組と教育番組の愛好者が必ずしも12地区に存在しないため，第Ⅱ部第11章よりも簡単に12地区についてでなく，6都市について示したい（第Ⅱ－18表参照，第Ⅱ－19図－1－2参照）。

(イ)　首都アンカラにおいては，少なくとも短期滞在者と長期滞在者では，宗教番組愛好者の方が教育番組愛好者よりも高い勤労意欲を有する（第Ⅱ－19図－1参照，折れ線1が折れ線2の上にある）。宗教番組愛好者の勤労意欲は，長期滞在者でアンカラの平均より高いけれども低下しており，b）勤労意欲衰退型である。非移動者（都市第二世代）には，宗教番組愛好者は存在しないが，教育番組愛好者は勤労意欲を大幅に失っている（2.33，第二世代の平均は3.44）。教育番組の愛好者はa）勤労意欲強化型だが，第二世代ではd）勤労意欲非確立型である。

(ロ)　伝統的地方大都市ガジアンテップにおいては，宗教番組愛好者（折れ線3）は勤労意欲が高いけれども低下しb）勤労意欲衰退型を示す。けれども，第二世代はc）勤労意欲確立型である。これに対して教育番組愛好者では長期滞在者は存在しないため，折れ線は記されない。ただし，短期滞在者（左端）と第二世代（右端）においては，宗教番組愛好者よりも低い。宗教番組愛好者の方が，都市滞在の中で勤労意欲を高める環境が，伝統的な地方大都市ガジアンテップに認められる。

(ハ)　新興工業中大都市メルシンでは（都市第二世代は存在しない），短期滞在者では両番組の愛好者は同じ勤労意欲を有するけれども，宗教番組愛好者（折れ線5）は教育番組愛好者（折れ線6）ほど都市滞在の中で勤労意欲を強められないが，わずかにa）勤労意欲強化型（ただし，第二世代は不在）となる。

(ニ)　伝統的な中都市トラブゾンにおいては（第Ⅱ－19図－2参照），宗教番組愛好者（折れ線7）は，短期滞在者では教育番組愛好者（折れ線8）と同じ勤労意欲を有する。長期滞在者では宗教番組愛好者の勤労意欲が強まり，a）勤労意欲強化型であるが，教育番組愛好者よりも低くなる。また，第二世代では，d）勤労意欲非強化型である。これに対して，教育番組愛好者は，長期滞在者で第二世代で勤労意欲が短期滞在者よりも高く，b）勤労意欲強化型である。しかし，第二世代ではやや低下し，d）勤労意欲非確立型となる。とはいえ，伝統的な中都市トラブゾンにおいては，宗教番組愛好者よりも教育番組愛好者が自らの生活に自信を有し始めるといえよう。

(ホ) 富裕な地方小都市ネブシェヒルでは，短期滞在者こそ宗教番組愛好者（折れ線9）が，教育番組愛好者（折れ線10）よりも低い勤労意欲を示すけれども，勤労意欲は短期滞在者から長期滞在者，そして第二世代と，都市滞在の過程で順に高まりしかもアンカラの平均を上回り，cc）本来の勤労意欲確立型となる。これに対して，教育番組愛好者は長期滞在者が短期滞在者より勤労意欲を高め，a）勤労意欲強化型になるが，第二世代は勤労意欲をやや低下あるいは維持するd）勤労意欲非確立型となる。

（ヘ）地方町ビュンヤンでは，宗教番組愛好者（折れ線11）では（短期滞在者が存在しない），第二世代の勤労意欲が長期滞在者よりも高いc）勤労意欲確立型となる。これに対して，教育番組愛好者（折れ線12）は長期滞在者で著しく高い勤労意欲を示すけれども，第二世代では勤労意欲を著しく低下させ，著しいb）勤労意欲強化型を示すが，d）勤労意欲非確立型となる。地方町は，宗教番組愛好者には勤労意欲を強化する環境を有するけれども，教育番組愛好者にはその環境を欠くといえよう。

以上のことから，伝統的工業を有する地方大都市，また，豊かな小都市と地方町に，宗教番組愛好者，言いかえれば，宗教志向型の都市下層民の勤労意欲を高める環境が存在しているといえよう。また，これらの都市には，イスラム的生活様式を確固として備えて生活する人々がより多く存在するといえよう。